

NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第75号 (H29.10.25)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (メール info@ormz.or.jp) 文責：日高良雄



はじめに 10月も終わりですね。先日の台風21号、各地に大雨などの被害をもたらしましたが、皆様の地域ではいかがだったでしょうか。大きな被害のないことを祈るばかりです。

宮崎でも朝夕涼しくなり、虫の音が聞こえてきます。富士山では初冠雪の報道もあり、着実な季節の移り変わりを感じています。実り多い秋となることを期待したいですね。

今回のニュースは、ザンビアに戻られた山元香代子先生と、宮崎から2週間ザンビアに滞在された松田俊太郎先生からの現地活動報告、そして大使館のザンビア情報です。どうぞご覧になってください。

また、皆様からの感想、ご意見をお待ちしています。よろしくお願ひします。

現地活動報告 (山元香代子先生から (10月22日付け))

みなさま いかがお過ごしでしょうか。日本は超大型の台風が近づいていると聞きました。被害の出ないことを祈っています。

私は7日にザンビアに戻りました。串間市民病院の松田先生がいっしょでした。ルサカはどんよりと曇った天気が続く結構な量の雨も降り、今年は雨季が早いように感じられました。雨が降り出すと、井戸掘削、殺虫剤噴霧、建設作業ができなくなると不安でしたが、その後はお天気が続いています。

車(ランドクルーザー)のクランクシャフトが日本から届かず、1台の車は全く使えません。ありがたいことに、ギアボックスを入れ替えたランクルが、何とか走れるようです。しかし、殺虫剤噴霧にはレンタカーを借りなくてははいけないようです。

10月11日はルアノでの巡回診療。患者数は48名と少なく、マラリア陽性は45名中0名(0%)。去年の今頃は4名(12%)でしたのでやはり減少しているようです。松田先生にいろいろとお手伝いいただきました。ルアノの巡回診療をしている近くの川に金が出るとのことで、インドの鉱山業者がルアノまでの道の整備をしてくれました。

石ころや大きな岩が除かれ、見違えるほど道が良くなり、車に乗っていても楽になりました。患者数も少なく、早めにルアノを出発したのですが、途中で、車のギアがきかなくなり、ギアオイルが漏れていることがわかりました。漏れを修理することはできないので、ギアオイルを足しながら帰るしかないとのこと。もう1台の車がチサンバまでオイルを買いに出かけました。その間約3時間、だんだん暗くなり、たき火をしながら待っていました。翌日、連結管からの漏れと分かり、部品の交換をしました。



見違えるほどきれいになった道路

10月17日はニャンカンガでの巡回診療でした。18日が休日で、1日前に実施したのですが、連絡が不十分で、患者数は64名と少なかったです。マラリア陽性は63中0名(0%)。昨年の同時期は3名(5%)でした。松田先生、大使館から参加された三木先生、島さんにいろいろお手伝いしていただきました。

ムワプラヘルスポストからスタッフが一人同乗して、予防接種を実施しました。目がよく見えない、夜尿の回数が多いと訴えた60歳の女性は尿糖4+で、糖尿病と考えられ、郡病院に紹介しました。血糖を測定することはできませんが、尿のチェックはできます。これからもっと気をつけて検尿をしなくてはと考えさせられました。

大使館からみえたお二人に、大使館の草の根の資金協力を申請してはどうか、応援すると言われとてもうれしかったです。

時差ぼけと暑さで参っていたのですが、10月13日はルアノ郡保健局訪問のためオールドムクシにでかけました。ルアノのあるチサンバ郡との境界にあるルアノ郡のリテタから巡回診療の要請があり、保健省の許可がもらえそうなので、その旨を伝えるために出かけました。とにかく遠かったです。

ルサカを8時過ぎに出て、途中3時間程は舗装していない道路を走り、夕方6時ようやくオールドムクシのヘルスセンターに到着。郡保健局はそこから更に2-3時間かかると言われ、残念ながら断念しました。帰途、後部のスタビライザーは落下するし、バッテリーのケーブルは完全に断裂し、全く車が動かなくなりましたが、何とか修理でき、やっとの思いで翌日の1時過ぎにルサカに到着しました。収穫はルアノ郡保健局の局長の名前と連絡先がわかったことと、途中で新鮮な野菜やスイカをととても安く買えたことでした。

10月20日にルアノで噴霧のオリエンテーションを行い、今週末からマラリア蚊の噴霧が始まります。その後ニャンカンガでも全村で実施する予定です。11月末にはコミュニティヘルスワーカーの残り10日間の研修が始まります。とても忙しいですが、車の修理が一刻も早く終了し、これ以上大きな車のトラブルが起きないことを願うばかりです。運転手の二人は土・日曜日も、わずかな時間外手当で仕事をしてくれています。ありがたいです。

この2週間、松田先生には診療だけでなく、いろいろな雑用をお願いして、とても助かりました。ありがとうございました。

みんな元気でがんばって仕事をしています。これからもみなさまからのご支援をよろしく願い申し上げます。ありがとうございました。

現地活動報告（松田俊太郎先生から）

10月6日から21日にかけて、モバイルクリニックを体験させていただくために、ザンビアまで向かいました。福岡空港から香港、ヨハネスバーグで飛行機を乗り継いで、二日かけてザンビアの首都ルサカに到着しました。

私は、およそ6年前に、ザンビアを訪れていて、今回が2回目の訪問になります。以前と比較して、首都ルサカは、自動車の交通量がさらに増えていて、新しいショッピングモール、ビルディングや道路などの建築ラッシュでした。その多くは、中国資本であり、人々は活気にあふれていました。

一方で、以前と変わらずごみの問題は深刻で、都市部でもこの時期には珍しくコレラが発生していました。貧富の格差も深刻です。高級車を乗り回し、先進国と変わらない食事を食べている富裕層と、生きたニワトリを購入して調理し、上下水道が届いていない中で生活している貧困層、その格差は明らかでした。全ての道路がコンクリートに覆われていて、ほとんど道路脇にゴミもほとんど落ちていないし、



途中の道路脇で患者さんを急遽診療

貧富の差も小さく、お金持ちもそうでない人も同じような洋服を着て、同じような食事をとることができる日本と比較して、多くの課題を抱えていることもわかりました。

今回は、山元先生を中心にモバイルクリニックを継続して行っている三地区のうち、ルアノ地区とニャンカンガ地区を訪問することができました。両地区には、電気、水道はなく、エネルギー源は木炭になります。水は、一般的には遠くの川などから歩いて汲んできて利用することになりますが、これらの地区ではすでに18本の井戸が掘られていて、安全な水を近くで利用できるようになっています。

事務所からランドクルーザー2台で薬や医師、助産師など必要な物品と人を乗せて、それぞれ168 km、173 km移動します。朝6時に出発し、到着するのは、10時半を過ぎます。その道のりの6割以上は舗装されていないでこぼこのダート



ロードになります。宮崎の田舎育ちで体力が自慢である私でさえ、長時間の悪路の移動は、とても疲れしました。山元先生にお聞きすると、ルアノ地区はその奥地で金が採掘されるようになったために、大きな岩が除去されて、これでも道路はかなり改善されているということでした。想像をはるかに超えた道のを毎週訪問し、診療だけでなく、その準備から診療後のまとめまで実践していることに、あらためてその努力に感動しました。

さて、肝心の診療についてお話しします。今回は、気候も比較的よくて、ザンビアの祭日による日程変更もあったことから、両者それぞれ60人前後の患者数でした。煉瓦作りの診療施設の中で、その一部の診察をさせていただきました。ご高齢者はほとんどいませんので、主に比較的若い患者が対象になりますが、医療の本質は、ザンビアでも日本でも基本は変わらないことが実感できました。英語を使って、現地の言葉を話せる通訳を介して、コミュニケーションを行います。主訴を聞いて、現病歴、既往歴、生活歴などを確認し、必要な身体診察を行うことで、診断を下すことができます。お薬は、首都ルサカの薬局から多くの薬剤を購入していて、都市部と変わらない医薬品を無償で処方します。月に1回になりますが、これだけの医療を月に1、2回受けることができる現地の住民はとても幸せです。診療後の食事は現地の方が用意してくれますが、不思議とおいしく感じました。



診療後の食事風景

帰り道では、一台のランドクルーザーからオイル漏れがあり、山奥で火を焚いて3時間ほど待つことになりました。電話も通じないこれまで経験したことのない山奥で取り残されたときには、ランドクルーザー2台で毎回移動することによる安全性を実感しました。日本では考えられないほど車を酷使しますので、新しい車、しかも世界一耐久性の高い新しいランドクルーザーをなんとかもう一度確保できれば、と強く感じました。

山元先生を中心にザンビアのへき地医療を実践しているNGOスタッフは、とても大事な仕事をしていることに誇りを持っていました。2週間足らずの滞在でしたが、日本に帰るときには、スタッフみなさんとお別れすることがとても寂しくなりました。日本でもザンビアでも、世界中どこにいても、誇り高い仕事をしていくことの重要性和難しさを感じた2週間の研修になりました。今後は、こういった仕事に興味のある若手への研修の機会を与えられるよう取り組みたいと考えています。

(宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座 松田俊太郎)

ザンビア情報 (在ザンビア日本大使館 HP からの転載情報)

◎「JAPAN DAY 2017」

2017年10月3日(火)、日本大使館は、首都ルサカ市のマンダヒルショッピングモールにおいて、日本文化体験型イベント「ジャパン・デー 2017」を開催しました。

日本の伝統文化紹介として、書道、折り紙、浴衣コーナーが設けられ、多くのザンビア人、ザンビア在住外国人がこれら日本文化を体験しました。

併せて日本酒紹介を行い、日本の自然と知恵と文化の結晶とも言われる日本酒の魅力発信を行いました。また、邦人による日本の曲のバイオリン演奏も行われました。

多くの来場者が、各コーナーにおいて実際に日本文化を体験することにより、日本への理解を深めるとともに、ザンビアではまず飲むことができない日本酒にも興味を示し、ジャパン・デー会場は盛況を見せました。ザンビアでは日本文化に触れる機会は限られていますが、このような文化行事を通じて、日本とザンビアの交流の幅が広がり、両国間の相互理解が深まり、友好関係が一層発展することが期待されます。



賛助会費納入及びご寄附のお願い

・認定NPO法人ザンビアの辺地医療を支援する会の事業は、皆様からの賛助会費並びにご寄附により運営されています。賛助会費は個人一口5000円、団体一口10000円からとなっており、ご寄附につきましては金額を問いません。

・郵便局まで足を運んでいただくというお手間をおかけしますが、ご協力のほどなにとぞよろしくお願い致します。入金を確認しました際には、日高から御礼のメールを差し上げます。また当法人は認定NPO法人であり、ご寄付(賛助会費含む)いただいた際には、翌年の確定申告で税制上の優遇措置を受けるための寄附受領証明書(賛助会費も寄附金と同様税控除の対象)をお届けしますので、確定申告の際まで大切に保管しておいてください。ご不明の点は日高(info@ormz.or.jp)までご連絡ください。

★郵ちょ銀行からの振替

口座記号 01720-9 口座番号 126351

加入者名 : NPO法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金

郵ちょ銀行 店名:一七九、預金種目:当座、口座番号:0126351

加入者名 : NPO法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称(全角):トクヒ)ザンビアノヘンチイリョウヲシエンズルカイ

以上

平成29年も残りわずかですがORMZへのご支援のほど、どうぞよろしくお願い致します